◆シリーズ第15回

白石市図書館

館長　平間　啓子

白石市図書館は、大正３年11月に「明治記念文庫」としてスタートした歴史ある図書館です。特に郷土資料（片倉家、白石城、白石温麺、弥治郎こけし、白石和紙などに関するもの）は、全国から調査、研究に来館される方がおります。

今年度は、「より親しみやすく、利用しやすい図書館を目指して」を目標に、小さな改革ですが、木曜日の開館を午後５時から午後７時まで延長し、仕事帰りの方や高校生、大学生、または、親子での利用機会の拡大に努めています。

また、市民の皆様との協働を目標に、読み聞かせや書架整理のボランティアを募集し、活動を始めていただいたところです。少しずつですが、「図書館」を単なる「貸本屋」ではなく、より多くの市民の皆様の「生涯学習のための施設」にしていく活動を続けて行きたいと思っています。

現在の建物は昭和49年に建設されたもので、学生の勉強部屋や貸出サービスが中心の時代の構造になっています。今のところ新築の予定はありませんが、当市には「博物館」建設の動きがありますので、図書館の多くの郷土資料も博物館と併設という形でなら大いに活用できるものと思っています。

図書館が市民の皆様にとって、ゆったりとした時間を過ごせる生涯学習の拠点施設となる日が来ることを夢見て、今日も仕事に励んでいます。

白石市図書館

▼データ

- 蔵書冊数：96,223冊（平成16年度末現在）
- 貸出冊数：113,401冊（平成16年度実績）
- 開館時間：火・水・金・土曜日　午前9時～午後5時
  木曜日　午前9時～午後7時
  日曜日　午前9時～午後4時
- 休 館 日：毎週月曜日、第1金曜日、国民の休日、年末年始（12月29日～1月3日）、曝書期（蔵書点検期間10月1日～10月10日）
- 交通案内：JR東北本線白石駅より徒歩約12分、市民バスで約3分

住所：〒989-0257　白石市字亘理町37-1
TEL：0224-26-3004
FAX：0224-26-3505

読書推進講演会

小説家になること、小説家であること

講師　熊谷達也氏

平成17年10月30日、秋晴れの澄んだ空の下、読書推進講演会が開催されました。この講演会は、県民の皆さんによりいっそう読書に親しんでいただくことを目的として、宮城県図書館が主催して読書週間中に行っているものです。今年度は、会場となった仙台白百合学園との共催で、宮城県出身で仙台市在住の直木賞作家、熊谷達也氏を講師にお迎えし、「小説家になること、小説家であること」との演題で以下のようなお話をいただきました。

■小説家になること

幼いころ、「三枚のお札」の話をわくわくしながら母親から聞いたのが物語の面白さを知った始めでした。それからひとりで絵本を読めるようになり、小学校に入ってからは、学校の図書室や町の公民館の図書室から定番の伝記ものや探検物語などを借りて読みました。中学生以降は、アーサー・C・クラークなどの本格的なSFを一生懸命読みました。今にして思うと、偏ってはいましたがかなりの読書量でした。

書くほうはというと、小学校４年生のころにフィクションらしきものを書いたのが始めで、中学・高校時代には、ガリ版刷りの評論集を作ったり、100枚くらいの論文を書いたりしたこともあります。はじめて意識して小説を書いた20歳ころまでに、ある程度の素地はできていたのではないかなと思います。

■小説家であること

デビュー後、「東北の話はやめましょう。東北では本が売れませんから」と東京の編集者に言われ腹が立ちました。「これから５年間は東北以外のことは書かない」と決めましたがなかなか売れない。５年間が過ぎたので、東北ものはもうやめだと半分思っていたら、『邂逅の森』で直木賞をいただきました。

苦しい状況のとき、作家活動の支えになったのは雑誌『東北学』のスタッフたちでした。東京の編集者以外のさまざまな人脈がそこで出来たことは大きな財産です。野球やサッカーの世界では仙台のサポーターは高く評価されていますが、文化面でもサポーターになっていただくということは大切なことです。

■これからの活動について

今後、書く内容が東北から離れることがあるかもしれませんが、ベースとなるのは生まれ育った宮城県です。育ててくれた地元に小説家として何か恩返しが出来ないかと考えています。先ごろ、高等学校文芸作品コンクールの小説部門の審査員をお引き受けし、雑誌『仙台学』の編集部と相談して入賞作品を掲載してもらうことにしました。作品を書きつつ、このようなことにも力を注いでいきたいと思っています。

講演・質疑応答の後、仙台白百合学園高校の生徒さんから熊谷氏に花束が贈呈され、楽しい雰囲気のうちに講演会は終了しました。

図書館からのお知らせ

特別整理期間のため休館します。

年に１回の所蔵資料の整理を行うため、下記の期間は休館します。利用者の皆様にはご迷惑をおかけしますが、ご理解とご協力をお願いします。

期間　平成18年1月26日（木）から2月8日（水）まで

表紙エッセイ／平間　至さん

ひらま・いたる。フォトグラファー。1963年宮城県塩竈市生まれ。日本大学芸術学部写真学科を卒業後、ニューヨークに渡り作品制作をする。帰国後、カメラマン・イジマカオル氏のアシスタントを経て1990年独立。以後エディトリアルの写真を出発点に、広告やCDジャケット写真を中心に幅広く活動。写真集に『MOTOR DRIVE』（光琳社　1995年）、『Hi-Bi』（BIKKEとの共著、メディアファクトリー　2000年）、『よろしく！』（新風舎　2003年）、『アイ・ラブ・ミーちゃん』（河出書房新社　2004年）、『No music, no life.』（マガジンハウス　2004年）などがある。2003年１月には、写真展「平間至の発見／SHIOGAMA100人＋α＋２匹！」をふれあいエスプ塩竈で開催し１万人を動員するなど、出身地宮城県と結びついた活動も数多く行っている。
オフィシャルサイトURL　http://www.itarujet.com/

ことばのうみ　題字　作家・高田　宏氏

本誌タイトル『ことばのうみ』は、本館第８代館長・大槻文彦編著による日本最初の近代的国語辞典『言海（げんかい）』（1889～1891年刊行）に由来する。

第20号　2005年12月発行

編集・発行
宮城県図書館
〒981-3205
仙台市泉区紫山一丁目１番地１
TEL 022-377-8441（代表）
FAX 022-377-8484
ホームページ
http://www.pref.miyagi.jp/library/

デザイン／印刷　㈱仙台共同印刷

この「ことばのうみNo.20」は13,000部作成し、1部当たりの印刷単価は13.86円です。

古紙配合率100%再生紙と大豆インキ（SOYインキ）を使用しています。

ISSN 1345-0379

ことばのうみ

KOTOBA NO UMI

宮城県図書館だより

MIYAGI PREFECTURAL LIBRARY　No.20　2005. 12

特集「きらめく文化財の世界」パート3

「秋の大おはなし会」
●とき：平成17年10月１日
●場所：宮城県図書館　２階　ホール養賢堂

青春オーケストラ

平間　至

もともと文学少年でもなく、勉強好きでもなかった僕が、唯一図書館に通ったのは高校三年生の夏休みでした。

当時、高校生オーケストラでチェロを弾いていた僕は、バイオリンを弾いていた女の子のことがずっと気になっていました。

でも僕はチェロパートの中でも一番へたくそで曲を演奏するというよりもみんなに合わせるふりをするだけで精一杯、そんな僕が進学校に通う可憐な彼女に話しかける勇気などありませんでした。

ある日友人と図書館に行くと、たまたま女の子グループの中に彼女の姿を見つけました。小さい時から好きな子の前では不自然な行動をとってしまう僕はギクシャクしながら初めて彼女と話をすることができました。

それから僕は毎日せっせと図書館へ通い、新学期が始まる頃には僕の恋もひと夏を終えていました。

今でも、図書館は僕にとってそんな甘い思い出でいっぱいです。

（ひらま・いたる　フォトグラファー）